’９５夏季キャンプ
報　告　書

於　北桑田郡美山町芦生
京都府芦生青少年山の家
７／２８（金）～７／３１（月）

日本ボーイスカウト
京都第３８団カブ隊

目　次

	頁
実施要項	１
予定表	２
表彰結果	３
プログラム報告（はがき作り）	４
（夜間ゲーム）	６
（ハイキング）	７
（夜間訓練）	１１
（いかだ作り）	１２
（野外料理）	１４
（大営火）	１５
反省会のまとめ	１６
夏キャンプのひとコマ（写真集）	１７
感想文（デンリーダー・野行・本部）	２０
決算報告書	３０

１９９５年度年少隊夏季舎営実施要項

期　　間　：　１９９５年7月２８日（金）～３１日（月）　　３泊４日
実施場所　：　北桑田郡美山町芦生　京都府芦生青少年山の家
　　☎０７７１７－７－０２９０（不在の時　０２３６）
　　芦生なめこ組合工場　↑
連絡先　：　同上　京都第３８団年少隊　宛
集　　合　：　7月２８日（金）午前8時４５分　　ハウス長休
解　　散　：　7月３１日（月）午後0時３０分　　ハウス長休
反省会　：　7月３１日（月）午後7時　　ハウス長休
交　　通　：　末吉氏バス提供（スカウト輸送）
医療機関　：　北桑田郡美山町上平屋　平屋診療所
　　☎０７７１－７５－１１１３（代表）
責任者　：　京都第３８団年少隊隊長　西脇　孝典

本部体制　：

隊　長	西脇　孝典	総括責任
副　長	岡本　健司	写真・記録
副　長	南　忠治郎	備品管理
副　長	山本　　茂	健康安全
副　長	畑　秀悌生	会　　計
副長補	西脇　淳人	スカウト総括
ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	福井　和雄	スカウト総括
ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	入矢　次郎	救　　急
ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	山田　哲央	技能補佐

よてい表

	一日目（28日）	二日目（29日）	三日目（30日）	四日目（31日）
6		00 起床（きしょう） 洗面（せんめん）	00 起床 洗面	00 起床 洗面
7		00 朝食（ちょうしょく） 40 点検（てんけん）	00 朝食 40 点検	00 朝食 40 点検
8	45 全員集合（ぜんいんしゅうごう）	00 朝礼（ちょうれい）	00 朝礼 日曜礼拝	00 朝礼 30 せいそう
9	00 出発（しゅっぱつ）	00 テント設営（せつえい）	00 テント撤収（てっしゅう）	00 閉村式
10		00 出発	00	00 芦生山の家発
11			隊プログラム	
12	30 芦生山の家着（あしう やま いえちゃく） 00 昼食（ちゅうしょく）	ハイキング	00 昼食	30 ハウス着 かいさん
13	00 開村式（かいそんしき） 30		00 ひるね 30	
14				
15	隊（たい）プログラム	30 帰着（き ちゃく）	隊プログラム	
16	30 組（くみ）タイム	30 組タイム	00 野外料理準備（やがいりょうり じゅんび）	
17	30 ふろ	30 ふろ	30 野外料理	
18	30 夕食（ゆうしょく）	30 夕食	30 ふろ	
19	30	30	00	00 はんせい会 ハウス長休
20	夜間（や かん）ゲーム	夜間くんれん	大営火（だいえいか）	30 かいさん
21	00 組長次長会議（くみちょうじちょうかいぎ） 30 消灯（しょうとう）	00 組長次長会議 30 消灯	00 組長次長会議 30 消灯	
22				

こんだて表

朝	―	ごはんとみそ汁	ごはんとみそ汁	パンと牛乳
昼	かぶ弁当	かぶ弁当	五目そーめん	―
夕	どんぶり	からあげ・ｽﾊﾟｹﾞﾃｨｰ	野外料理	―

表　彰　結　果

［団体の部］

１日目優秀組	２	組
２日目優秀組	１	組
３日目優秀組	３	組
手作りはがき賞	２	組
夜間ゲーム賞	１	組
集合賞	３	組
ハイキング賞	３	組
夜間訓練賞	２	組
クリーン賞	１	組
いかだ賞	１	組
野外料理賞	２	組
営火賞	３	組
総合優秀組	２	組

［個人の部］

敢闘賞	福井和典君
努力賞	高橋　智君
スマートネス賞	畑　俊行君
個人優秀賞	高濱優宏君

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名	葉　書　作　り		
実施日時	平成7年7月28日（金）　１３：３０～１６：３０		
場所	芦生山の家	担当	畑ＡＣＭ
ねらい	牛乳パックで、手作り葉書をつくろう。		
活動			

細かいパルプ作り

①よく洗って乾かした牛乳パックを１０㎝四方にやぶる。
②それを重曹を溶かした熱湯に入れ１５分ほど火にかける。
③表面のビニールをはがします。
④細かくちぎって、水洗いし、ミキサーに入れ、水と一緒に細かくかくはんする。
⑤どろどろのパルプを固く絞り、１０個の固まりに分ける。
⑥ひと固まりが約１０㌘葉書１枚分です。

紙をすく

①パルプひと固まりを500 ccの水にまぜる。（洗濯のりを少しまぜると、はりがでます）
②アミ付きの枠を下側にして木枠を２段に重ね、水の中につけ、上の枠に、水に溶いたパルプを注ぎ込みます。
③網の上にのったパルプを水のなかで、厚さが均等になるように、すきます。
（このときに、葉っぱや花びら、色紙などの装飾をします）
④パルプが落ち着いたら、上の枠を取り外し、下の網に付いているパルプを台の上に置いてある、ふきんの上にそっとひっくり返します。
⑤ふきんをかぶせ、タオルで水分を根気よく押して、すいとります。

仕上げ

①十分に水気をとった、ふきんを挟んだまま、ガラス窓などに貼り付けて乾燥させる。
②最後にアイロンをかけて、しわを伸ばしたら出来上がり。

講評・反省

キャンプ最初のプログラムでもあったせいか、スカウト全員元気に活動していた。
牛乳パックをちぎっていた頃は、本当に葉書が出来るのか不思議そうな表情で作業していたが、パルプを木枠ですきだし、葉書の形になってきた頃には『これで葉書ができるのか。』と納得した様子。一人２～３枚の作成を予定していたが、全員楽しく面白くなりだし物足りず本部が事前に用意しておいたパルプも提供する始末。一人平均４～５枚、作ってそれぞれの想いの家へ切手を貼り郵送していた。

手作りはがき賞　２組

リサイクル教室

牛乳パックで、

手づくりはがきをつくろう！

京都市立西賀茂中学校社会科クラブ

用意するもの（ハガキ10枚分）

- 牛乳パック（1ℓ サイズ2箱）
- 重曹、
- すき枠用木材　・網（網戸用）
- ミキサー　・ボール
- バット　・ふきん
- タオル

STEP1　木枠を作る

- 木ぎれを使って、四角い枠を2個作ります。
- 枠の内側をハガキの大きさに合わせて接着剤とくぎとで組み立てます。
- 幅や厚さが2㎝が使いやすいですよ。

2こつくる
この方は網をつける

STPE2　細かいパルプを作る

- よく洗って乾かした牛乳パックを10㎝四方にやぶる。
- それを重曹に溶かした水につけ一晩置きます。（急ぐときは熱湯で火にかけると15分でOK）
- ビニールと紙の接する部分をはがします。
- はがしたパルプを細かくちぎって、水洗いをし、ミキサーに入れ、水といっしょに細かくかくはんします。
- どろどろのパルプを固くしぼり、10個の固まりに分けます。
- ひと固まりが約10㌘、はがき1枚分です。（まとめて冷凍しておけば長もちします）

STEP3　紙をすく

- パルプひと固まりを500㎤の水にまぜます。（洗濯のり少しまぜるとはりが出ます）
- 網付きの枠を下側にして、木枠を2段に重ね、水の中につけ、上の枠に、水に溶いたパルプを注ぎ込みます。
- 網の上にのったパルプを水の中で、厚さが均等になるようにすきます。（このときに、葉っぱや花びら、色紙などの装飾をします）
- パルプが落ち着いたら、上の枠を取り外し、下枠の網に付いているパルプを、台の上に置いてあるふきんの上にそっとひっくり返します。
- ふきんをかぶせ、タオルで水分を根気よく押してすいとります。

STEP4　仕上げ

- 十分に水気をとった、ふきんを挟んだまま、ガラス窓などに貼り付けて乾燥させます。
- 最後に、アイロンをかけてしわを伸ばしたら、はい、出来上がり。

5

プログラム名	夜間ゲーム		
実施日時	平成7年7月28日（金）　19：30～20：30		
場所	山の家グランド	担当	西脇　JACM
ねらい	暗闇のなかでの注意・観察力をためすとともにロープ結びの普段の訓練の成果を発表する		
活動			

		1組	2組	3組
音当てクイズ	スコップ	×	○	○
	竹	○	○	○
	木	○	○	○
ろうそくリレー		3位	1位	2位
殺人光線とロープ	1回戦	1位	2位	3位
	2回戦	1位	3位	2位

講評・反省

スカウトそれぞれ良くできていて，評価がつけにくかった。
皆一生懸命がんばれてよかったと思っています。

夜間ゲーム賞　1組

6

プログラム	２日目　　昼
テーマ	ハイキング　：　森の線路を、由良川源流へ
日時	７月２９日　土曜日　１０時００分～１５時３０分
場所	山の家→灰野→こよもぎ→かづら谷→山の家
内容	森の木の名前を調べながら、トロッコ道を歩く。
ねらい	森の自然に浸る。　京大演習林内のトロッコ道を由良川上流めざして歩く。　森には多くの種類の木が生きていることを感じる。木に触れ木の鼓動を聞く。
活動	

9:45　山の家発
10:00　演習林事務所奥の橋　　３組から、５分毎に出発
　ｐ１：灰野（山本ACM・酉JACM）　暗号解読（數字-50音：森の木の名前を調べよ）
　ｐ２：赤崎（福井INST・入矢INST）休憩：飴配給
　ｐ３：コヨモギ作業場（畑ACM）　手探り触覚ゲーム
　ｐ４：影迫橋（岡本ACM・山田INST）観察：聞こえるもの・木に聴診器を当てる
　ｐ５：かづら谷（南ACM）　　到着報告
12:30　かづら谷着　　：　昼食
13:00　由良川で川あそび
13:30　かづら谷出発　　隊行進
15:30　山の家着

講評・反省

”線路は続くよ、どこまでも”が今年のテーマソングです。　ソングにふさわしく、トロッコ道をたっぷり歩きました。

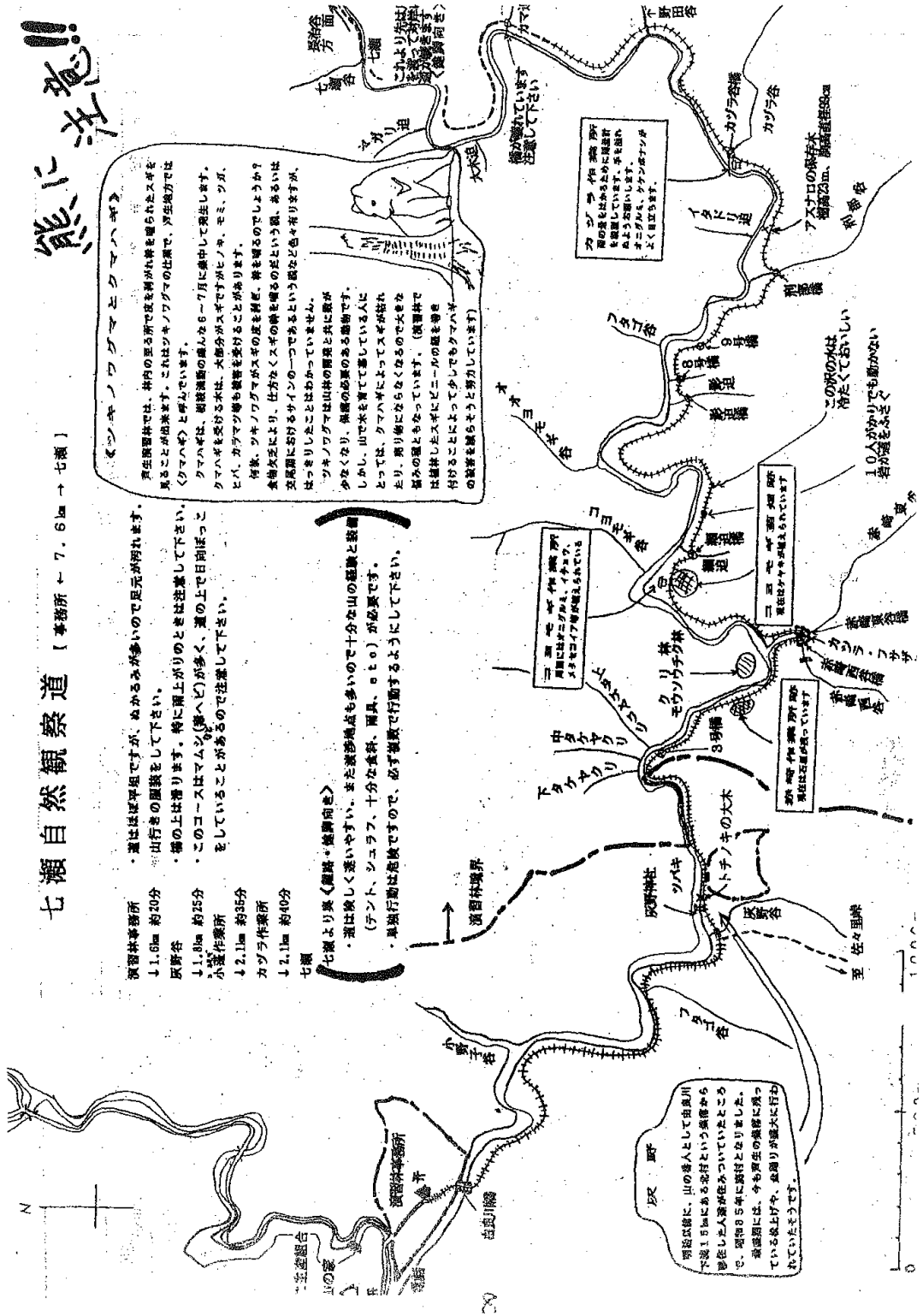
山の家から目的地かづら谷までは、結構長い距離です。　でも、コースのほとんどが森のなかで、木々が日をさえぎるために暑さをしのげたのは幸いでした。　大きく遅れるスカウトもなく、みんな元気に目的地にたどりつけました。

途中、４箇所にポイントを設定しました。　はじめのポイントで、森の木の名前を調べる課題を出しました。　トロッコ道は演習林内のため、所々の木に名前の札がかけてあります。　トチノキやアスナロの大木があります。各組とも、名前調べはよくできました。　１組はたくさん名前を調べ、２組は課題通り10種類、３組は７種類ですが木の様子を詳しく書きました。　第３ポイントの手探りゲームは、箱の中身を手探りで当てます。　各組ともに大きな差のない結果でしたが、わずかに３組がよい正答率でした。　第４ポイントでは、木に聴診器をあてて、木の脈動を聞きました。

目的地に着いて、やっと由良川におりることができました。カブ弁もそこそこにして、みんな川遊びを始めました。この川遊びが楽しかったようです。ついはしゃぎすぎてズボンまで濡らしたのは、ＤＣでした。

帰りは早いペースで歩き、予定より少し早く帰着することができました。

ハイキング賞は、木の様子を詳しく書き、手探りがうまかった３組でした。



森の線路を、由良川源流へ

ここ芦生は、由良川の源流地域。　流れる水は、遠く日本海へとそそぎます。

深い森は、天然のダムです。　降った雨をそのふところに貯めています。

由良川に沿って、　トロッコ鉄道が走っていました。

でもそのトロッコはもう走らず、　線路だけが残っています。

線路はつづくよ、どこまでも。　森の奥深くへとつづきます。

少年レンジャー諸君！

さあ、由良川の源流めざして、　トロッコ道をさかのぼりましょう。

P．1　指令　：　次の暗号を解きなさい。

1－5　1－5　5－1　0－1　2－2　0－3　4－5　6－5　8－2。

2－4　10－2　8－5　4－2　2－5　3－3　3－4、

2－3　2－3　6－2　4－1　2－1　0－2。

6－5　8－2　4－5　1－2　4－5　4－1　6－1　0－4　9－2

2－2　8－1　5－4　4－1　2－1　0－2。

（　ヒント　：　0　から　はじまるよ　）

組

こたえ　：

プログラム名	夜　間　訓　練		
実施日時	平成7年7月29日（土）　19：30～21：15		
場　所	京都大学演習林事務所付近	担当	入矢　インスト
ねらい	冷静さ，大胆さを養う（肝試し）		

活　動

演習林入り口に懸かる橋から，一人ずつ演習林事務所横のお宮さんまで行き，そこに置かれた本の中から，あらかじめ指示を受けた場所（何頁の何行目，何番目）の文字を探す。各組の一人ずつが持ち帰った文字をつなげると一つの言葉となる。「あしうのなかま」

講評・反省

進行がスムーズに行かず，予定の時間をオーバーしてしまい，特に最終組の２組は待ち時間が長くなり怖い話を聞かせるなどして精神的プレッシャーをかけてしまった。
また，訓練の最中に自動車で入って来られた演習林事務所の方に「まむしには気をつけてくださいね」と注意を受ける緊張の場面があった。
なお，正解の組はなかった。

夜間訓練賞　２組

（プレッシャーに打ち勝ったごほうび）

プログラム名	イ　カ　ダ　作　り		
実施日時	平成7年7月30日（日）　10：00～11：30		
場　所	山の家付近	担当	南　ＡＣＭ
ねらい	由良川源流をカワセミあるいは岩魚の視点に立って川下りするためのイカダを作る（工作）		

活　動

材料・工具等
コンパネ（各組１），タイヤチューブ（各組４），ロープ（各組１２），ポスカ（各色），電動ドリル（１），空気入れ（２），

作業内容
コンパネに穴をあける作業は電動ドリルを使うので本部が行ったため，あとはタイヤチューブに空気を入れてロープでくくりつけるだけでは早く終了しそうだったので，ポスカでペインティングをした。
各組の個性がにじみでる傑作ができあがった。

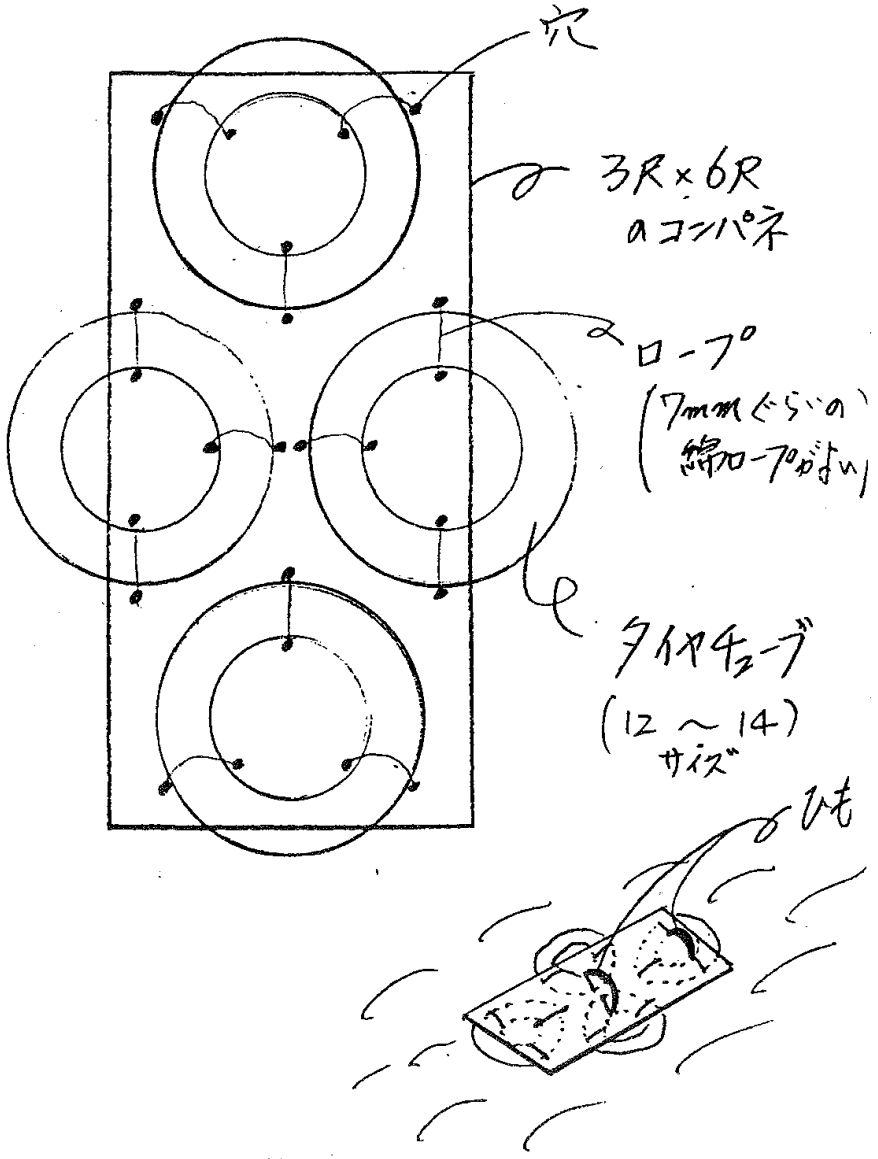
講評・反省

作成の工程が少量で単純であったためイカダが思ったよりも早く出来あがってしまい，ポスカでペインティングすることになったが，そのことによって全員が参加して協力できたし，また，各組の個性がよくあらわれたすばらしいイカダが完成した。
昼食の後，午後から由良川源流にイカダを持ち込み川遊びを行ったが，大きさと浮力の面で不十分（スカウト一人がやっと乗れる程度）だったと反省している。
それでも，スカウトにとっては結構楽しめたようで，夏キャンプのプログラム中では人気度№１であった。

イカダ賞　１組

イカダ下り用イカダ図

※子供数人用　(コンパネ1枚)



プログラム名	野　外　料　理		
実施日時	平成7年7月30日(日)　17：15～19：00		
場　所	グランド	担当	岡本ACM
ねらい	各組・育成会・本部がそれぞれ分担し，野外料理パーティーを行う。		
活　動			

調理分担

1　組　：　焼とうもろこし

2　組　：　焼おにぎり

3　組　：　お好み焼き

本　部　：　お好み焼き

育成会　：　にゅうめん，フルーツサラダ，すいか

講評・反省

- 当初予定していた焼きそばが材料のそばが傷み，急きょメニュー変更したためお好み焼きが2グループとなった。（遠隔地であるため期間中の食料調達がむつかしかったため野行さんにはご迷惑をおかけしてしまったと反省している。）
- 野行さんの機転でメニューを追加（にゅうめん）していただき，非常にもりだくさんの，最後の晩さんにふさわしい豪華版となり全員満腹となり大満足だった。
- 2組の焼おにぎりの香ばしさが絶妙であったともっぱらの評判

野外料理賞　　2組

プログラム名	大　営　火		
実施日時	平成7年7月30日（日）　19：45～21：15		
場　所	山の家グランド	担当	西脇　CM
ねらい	スタンツ・ソングの発表 友情を深める		
活　動			

- ハミング（遠き山に）　入場　→　点火
- 月下の営火 …… ［岡本ＡＣＭ］
- ３組スタンツ：　ゆかいなおさんぽ
- ぞうさんとくもの巣 …… ［山本ＡＣＭ］
- ２組ソング
- 魚鳥木 …… ［畑ＡＣＭ］
- ３組ソング
- 人参大根かぶら …… ［入矢インスト］
- １組スタンツ：　天狗と三匹のこぶた
- 古時計 …… ［西脇ＣＭ］
- ２組スタンツ：　うさぎとかめ
- 花火 …… ［西脇ＪＡＣＭ］
- １組ソング
- アブラハム …… ［山本ＡＣＭ］
- 育成会ソング：　ひょっこりひょうたん島
- 本部スタンツ：　やまおやじの嘆き
- 一日の終わり　→　退場

講評・反省

組集会並びに夏季キャンプ中で熱心に練習をした各組のソングとスタンツに比べて，本部のスタンツは例によって大営火の直前にシナリオとキャストが決まり，これも例によってアドリブの連発という反省という言葉は本部のためにあるということを実感させられた。

各組の成果は本部協議においても甲乙つけがたしといったところで，ソングでの輪唱の妙とスタンツでのキャスティングにより営火賞は３組となった

営　火　賞　　３組

反　省　会　の　ま　と　め

不満に思ったこと（１人１回答）

- イカダをもう少し大きく，タイヤも増やしてほしかった（２人）
- 夜間ゲームをもっともりだくさんにしてほしかった（２人）
- 夜間訓練をもう少しやさしくしてほしかった（３人）
- 夜間訓練をもう少しこわくしてほしかった（１人）
- 川遊びをもう少し長くしてほしかった（１人）
- ハガキ作りをもう少し長くしてほしかった（１人）
- 夜間訓練の時長いこと待たされた（１人）
- 本部のお好焼きがおいしすぎた（１人）

楽しかったこと（複数回答）

- イカダ作り・川遊び（８人）　一番人気
- 野外料理（３人）　気分はすっかりシェフ
- ハガキ作り（２人）　夏休みの宿題？
- ハイキング（２人）　線路は続くよどこまでも
- 夜間訓練（２人）
- 夜間ゲーム（１人）
- キャンプファイヤー（１人）　意外に低人気

デンリーダーの意見

- スタンツ練習の組タイムが短かった
- ハイキングで疲れていたためハガキ書きがスムーズにいかなかった
- ハガキ作り・イカダ作り・川遊びがよかった
- 川遊びがよかった（水着を持って行けばよかった）

夏キャンプのひとコマ

準備完了　　いざ出発！

開会セレモニー　始まる

最初のプログラム　はがき作り

いただきます

「すみか」となるテントの設営

線路の上で休憩（ハイキング）

あーしんどかった（ハイキング）

合掌（スカウツオン）

いかだ作りに挑戦

いかだは定員１名でした

大営火にて

総合優秀組発表（閉会式）

国旗降納（閉会式）

芦生原生林に感謝（おつかれさまでした）

９５夏季キャンプを終えて

１組デンリーダー　高橋　チエ

長男と次男が入団して２年目，私にとって初めてのデンリーダーで前半は月里さん，後半は私になりました。

先輩の方から「デンリーダーをお願いします！」と言われてからは，たよりない私にはできるかしらと心の奥では不安でいっぱいでした。

そして私にとって一番不安な夏キャンプの隊集会がやってきました。

組集会ではデンコーチ，スカウト達に教えてもらいながらスタンツや替え歌を皆で考えました。

夏キャンプは７月３０日（日）～７月３１日（月）の参加でしたが，いかだ作り，大営火とスカウト達と一緒になって楽しめた事がうれしく思いました。

体調をくずし最後まで参加できなかったスカウトや，体調をくずしながらも頑張ってくれたスカウトがいたにもかかわらず，１組のスカウトのメンバー達は皆頑張ってくれました。

今から思えば，デンリーダーとしてあの時こうすればよかったなあ！と反省する所がありました。

これからも今年の夏キャンプを土台としてスカウトのメンバーをみまもりながら頑張っていきたいと思います。

スカウトをはじめ本部の方々、育成会の皆さん，猛暑の中ほんとうにありがとうございました。

最後に全員が無事帰宅できた事はうれしく思っています。

１組のスカウト達　ありがとう！

１年をふりかえって

2組 デン・リーダ　山本 美子

平成７年度カブ隊のメイン行事である夏キャンプも無事終わり、長期予報では冷夏といわれていたはずの今年の夏が暑い夏で終わろうとしています。

今、私個人にとっても、この夏一番の思い出であるカブ夏キャンプとこの１年をふりかえってみたいと思います。

２組のスカウトは、今年４月頃よりしかスカウトの一人が休隊され、くま２人、しか１人、うさぎ１人の４人という小さな所帯で行動しました。組集会をしていても、隊集会の時でも、みんながすぐまとまり、行動しやすい反面、少しさみしいなという感じでした。

昨年夏のあのカラカラの田村神社でのキャンプをインスタント・デン・リーダとして経験していた私は、ハイキングも暑さも太陽も少々のことではへこたれないぞーという気持ちで、１日目を迎えました。冷房の快くきいた幼稚園バスの中で、芦生はどのくらい涼しいのかなと期待しながら、スカウトが病気になったり、ケガなどしないように４日間すごせたらいいな、デン・リーダの役目がちゃんとできたらいいなと思っていました。芦生山の家に着き、二階の２組の部屋に入ると、これがなんととっても蒸し暑く、涼しさを期待していた私は少しがっかりしました。でも、明け方になると肌寒く、寝袋から出ているスカウトは、丸虫みたいになっていて、くしゃみをしたりしています。あわてて毛布をかけにまわったり、起こさないように寝袋のチャックを閉めたりしました。

４日間のキャンプのプログラムの中で、それぞれにいい思い出、楽しかったこと、デン・リーダとして反省すべき点など、細かく書き出せばいっぱいあります。その中で、昨年のキャンプより１年ずつ大きくなったスカウトの成長と、初めての経験に取り組むうさぎスカウトの頑張りを感じました。いつもはけんかをしたり言い合いをしたりしていますが、だれかがけがをしたり鼻血を出したりすると、こちらが言い出す前に、ティッシュやばんそうこうが出てきて、「だいじょうぶか」の一言。こちらがホッとして、思わず心があたたかくなりました。組長は組長、次長は次長の仕事がよくこなせたと思います。また、下のスカウトたちも感じてほしいと思います。この１年でみんなそれぞれに、大きく強くなったんだなあと感激しました。くやしいことがあり、涙をみせるスカウトもありましたが、そのくやしさをデン・リーダにぶつけてくれたとき、１年間デン・リーダをやらせてもらってよかったと思いました。

また、これはデン・リーダとしてではなく、個人的なことですが、肝だめしはどうも怖くていけません、去年も、今年も。いかだ遊びは、服が濡れるのが気になり、１度乗っただけでおわりましたが、もっと乗ってみたかったものです。

最後になりましたが、今は、３８団のみなさんにありがとうの気持ちでいっぱいです。そして、残り少ないデン・リーダとしての組集会・隊集会を有意義にすごしたいと思っています。

芦生の森

３組デンリーダー　八木　民子

♪賑やか３組キャンプだぞ…と、楽しみにしていたキャンプに行きました。組長　末吉玄希、次長　南知明、しか　畑俊行、八木克彦、北野寛幸、うさぎ高濱優宏、ＤＣ　岡本健太郎。全員、最後まで元気にプログラムに参加しました。

キャンプ地芦生の森は、由良川源流にある、数少ない原生林のひとつで、すばらしい大自然でした。２日目のハイキングは、10時出発、トロッコ道を歩いて森の中へ。組長を先頭に、川を左側に、近づいたり、少し離れたりと、その音を聞きながら、小気味良く速く歩きます。11時40分最後のポイントに着き、聴診器を木に当て、木の音を聞く。聞こえた…かな。12時10分カズラ谷着。川原に下りて、昼食と水遊び。アカハラにオタマジャクシ、水筒流し？　お尻まで水に浸かってしまって。よく歩いた ――。３日目の筏作りは、筏になる板に絵を描くのも楽しく、スイミーにしようと、大きな魚の中に小さな魚やいろんな物を描き込みました。午後、筏にライフジャケットで川へ。冷たい水にもおかまいなしで、水に入りきりの子と、寒さで川原に上がって石で遊んでいる子といましたが、共に筏に何度も乗ったり、ライフジャケットで浮かんで流れたり、泳いだり、水を得た魚でした。夜の大営火は、始まる前に、だんだんと気分が高揚していくようで、スカウトがワクワクしている気持ちが伝わってきます。替え歌(毛虫が３匹)、スタンツ(ゆかいなさんぽ)共、自分達で決め、けいこをしてきました。みんなでやろうという気持ちが見えて嬉しかったです。４月の１泊キャンプは、ステップになりました。

私の都合で、大営火の途中で、末吉さんにデンリーダーをお願いして、心残りではありましたが、楽しかった余韻をもって帰路に着きました。

本部の方をはじめ、野行さん、御手伝いをいただいた父兄の皆様、お世話になり、ありがとうございました。

カブ隊キャンプに参加して

インストラクター　福井　和雄

３泊４日の年少隊野営（キャンプというより、『野営』という言葉を亡き小川玄諦先生は好まれていたように記憶していますが）――、私にとって実に２８年振りの原体験でした。そして今は、はつらつとした明日のボーイスカウト（になるべき）諸君と共に、３泊４日の年少隊野営の思い出を共有出来たことに、大きな喜びを感じています。が、その一方で、小学３～５年生の皆に付いていけない我が体力の衰えに愕然とさせられたのも事実でした。

今回のキャンプでいろいろお世話になった芦生なめこ生産組合の井栗登さんの長男は、私と同じ会社勤めで、一緒に労働組合運動に取り組んだ顔なじみです。ハイキングの時、演習林事務所から鉄橋を渡って暫く行くと、田畑の奥にぽつりと建つ１軒の家がありましたね。それが彼の生家なのです。

「芦生はどんなところ？」。事前にその彼から聞いた話によると、冬は腰まで雪が積もることがしばしばで、通学が一苦労、ワラ靴を履きかんじきを付けて、おじいさんがラッセルしてくれる後に続いて、小学校の分校まで、吹雪の日もあのトロッコ道を通ったとのこと。山の家の１階ホールに、雪だるまを囲んだ児童たちの写真があったのを覚えていますか。それが芦生分校の全盛期、中に彼の顔を見つけることが出来ました。クマやイノシシも友達ではなかったが、よく姿を見かけたと笑っていました。

その分校も昭和４０年代に児童が途絶えて廃校になります。芦生山の家はその分校跡に出来た施設で、営火やテントを張った広場は運動場だったところです。ちなみに中学や高校には通学が困難なため、寄宿舎に入っていたそうで、同じ京都でも、市内とは全く環境が異なることを改めて思い知ったことでした。

葉書作り、ハイキング、いかだ作り、川遊び、そして夜間ゲーム、夜間訓練、大営火―盛り沢山に組まれたプログラムは、どれも楽しかったのですが、中でも一番印象に残っているのが、京大演習林へのハイキングです。

私は第２ポイントの赤崎でスカウトたちを待っていました。到着した彼らは、汗だくで疲れた顔はしているものの、誰一人として音を上げる子は見当たりません。ここは小川同士が合流する地点で、トロッコ道は崩れ落ちて橋もなく、岩伝いにどうして川を渡るかが課題です。それぞれの組毎に知恵を絞っているようで、デンリーダーやデンコーチの助言を受けてどうするかを決めると、おやつの飴を口に入れ、しばらく休息のあと元気に出発して行きます。それを見送りながら、クマさんたちはともかく、ウサギやシカさんたちで水に落ちたり、滑ったりする子はいないかなと懸念していたのですが、そのような例は全く見られずうれしい誤算でした。

こうしてスカウトたちはカヅラ谷までの約２時間、トロッコの廃道をひたすら歩き進みます。他のポイントでも活き活きしていたと聞きました。目的地で食べたカブ弁のおいしかったことも忘れられません。

私はキャンプが終わってからの数日間、足は身が入ったまま、膝はがたがたというありさまでした。全く情けない。けれども芦生で過ごした３泊４日のキャンプは、私のスカウト人生に大きな思い出を残してくれました。ありがとうございました。

今年の夏キャンプについて

今度のキャンプは自分自身にとって，スカウト総括という非常に大変な役割で，自分の行動・リーダーとしての自覚・スカウトへの指導と総括について，スカウトから学ことや，リーダーからの指導，その他どのようにプログラムを作るか，行動するかなどの事がわかり参考になりました。

それなりに自分で考え，行動し，指導してきたつもりがまだ指導不足の点，インストラクターの考え，行動をわかっていないようで，アドバイス，指導が行き届いていない所があり，これからの自分の課題であり，学ぶべき所でもあると思います。

また，スカウトが何をリーダーに求めているかなど，これから考えていきたいと思っています。

今年のキャンプは，猛暑の中スカウト達はよく頑張ったと関心させられましたし，ケガもなく無事に帰ってこれて良かったと思います。

皆さん，大変おつかれさまでした。

副長補　　西脇　淳人

芦生原生林での夏キャンプを終えて

ＡＣＭ　畑　秀悌生

昨年（田村神社）の夏キャンプは半日ほど見学させていただき、今年は本部リーダーとして３泊４日参加いたしました。

春の１泊キャンプは小雪の舞う中での寒い体験をいたしましたが、やはり夏は好天にも恵まれたせいか４日間とも非常に暑く、体調には気を付けたつもりです。

学生時代から社会人と室内競技ばかり　やってきた私にとって、炎天下での野外活動は体にこたえるものがありました　が、その反面ひとつひとつのプログラム内容が、私にとっては新鮮で、自分もスカウトの一員となったつもりで　良き経験をさせていただいたと思います。

１日目の葉書作りで、パルプをすく作業の時にはスカウトも大人の方々も楽しくやっておられたように見うけられ、失敗作も少なく、枚数も多く完成し上々の出来でした。

２日目のハイキングですが、私はポイント３（コヨモギ作業場）で触感ゲームを担当しスカウトを待ち受けました。先月、下見で来たときに比べ非常に暑く、私がポイント３にたどり着いたときには、かなりの汗の量で　バテぎみだったのに対し、スカウト達が到着した時各組とも全員、元気な顔をしていたのには驚きました、
あの足場の悪い道程を　スカウト達をはじめ、デンリーダー、本部リーダーの方々、皆さんハイキング慣れされている感じがしました。本当のとこ　登山が苦手の私にとってスカウト達の手前　平気な顔をして歩くのに必死でした。もしあの道が急な登りが続いていたらと思うと－。

ハイキングから宿舎に戻り、休む間もあまりなく、昨日作った葉書の宛名書きをしたのですが全員ハイキングの疲れが残っているせいか、少し辛かったことと思います。

その晩の夜間訓練では、１組と２組が待つ時間が長く、その間、本部からから怖い話しを聞かされて、とくに最終の２組はスタート前に怖さがもりあがり全身鳥肌がたち、さぞ恐怖心でいっぱいで、あったことでしょう。“エッ！そんなことないって！？…”

夏キャンプも終わり　副長１年生の私は、カブスカウト活動の　だいたいひととおりを経験させていただきました。まだまだ分からない事が多くあり　先輩方、保護者の方々には御迷惑をおかけすることと思います。次回隊集会から気をひきしめ、またひとつひとつスカウト達と共に学んでいきたいです。

この夏キャンプで毎日美味しい食事を作ってくださった野行さん　ならびに保護者の皆様、葉書にアイロンをかけていただいた　お母さん方、
多忙な中、全日程を参加しスカウトを指導してくれたデンコーチの諸君、
ひとときも気をぬく間が無かったと思われるデンリーダーの皆さん、
スカウト経験豊富なインストラクターの皆さん、
そして、未熟な私を指導してくださっている隊長　ならびに本部リーダーの皆さん、
たいへんお疲れさまでした。心より感謝致します。ありがとうございました。

以上

1995年8 月17日記

'95　7/28～7/31

カブスカウト　夏キャンプについて

今年の夏も毎日暑い日が続きましたが、芦生山の家は大変涼しく、又近辺の環境も良く楽しくすごさせて頂きました。

私は今年で三度目のキャンプ参加でしたが年々スカウトがたくましくなっていますね。

ハイキング、イカダ作り、ハガキ作り、全てに一生懸命。又楽しくやっている姿には感心し、頼もしく思いました。

今年も無事大きな事故もなくキャンプを終えた事が何よりです。

育成会の方々父兄の方有難うございました。

南　ACM

とことこ・・トロッコ道

いかだでーざんぶり

（夏キャンプのふりかえり）

ＡＣＭ　山本

スカウト達を乗せたバスは、周山を過ぎ、由良川を遡ります。府道３８号線には入ると、山がせまり森が深くなります。いよいよ目的地“芦生山の家”です。待ちに待った夏キャンプの始まりです。

夏キャンプは、カブスカウトにとって１年で最も大きな行事です。今年は一泊キャンプを４月に行い、カブラリーも８月になったため、久しぶりの大きな行事になりました。

芦生は、「自然に触れ、環境のことを考えよう」というテーマで進めてきたこの１年のスカウト活動の成果を発揮するのに適したところでした。由良川の源流をめざし、京大演習林のトロッコ道をハイキングしました。途中、森の木の名前を調べ、木に聴診器を当てて、木の鼓動を聞きました。板とタイヤチューブでいかだをつくり、由良川に浮かべてちょっぴり川下りをしました。おたまじゃくしや赤腹いもりと遊んでいるスカウトもいました。牛乳パックを再生して作ったはがきもなかなか上出来でした。

印象的なのは、最終日の閉所式で総合講評を聞くスカウト達の真剣なまなざしです。キャンプの活動を一所懸命にやったんだという気持ちがあらわれています。これだけ頑張ったんだからきっと優秀組が、個人賞がもらえるはずだという期待感が伝わってきます。みんな最後まで本当に一所懸命に活動できました。みんなに賞をあげたいなと思いました。賞をもらった組やスカウトにはもちろんのこと、もらわなかった組やスカウトにもよくやったねといいたいとおもいます。

まとまりのいいキャンプができました。宿舎をほぼ独占して使用できました。天候にも恵まれました。暑い日が続きましたが、トロッコ道は木々が日をさえぎり、川は水量が豊富でした。スカウトの数が少なかったこともまとめ易かった一因でしょう。でも、これは少し残念な事です。多くの子供達に楽しいキャンプを経験してほしいものです。

このキャンプをご支援いただきました団委員各位には心からお礼を申し上げます。食事や身の回りの世話に心細かにご奉仕いただきました野行さんや育成会のみなさん、輸送にご協力いただきましたご父兄のみなさん、ほんとうにありがとうございました。また、隊長をはじめ、プログラムの準備や実行にたいへんご努力いただきました本部スタッフ・インストラクタ諸兄に厚く感謝を申し上げます。

スカウト達がこの経験を活かし、一層たくましく活動を続けていくように期待します。

芦生からの生還

ＡＣＭ　岡本健司

昨年の夏キャンプが終り９月を迎えたある月曜日，ふと思い立って美山町は芦生の地を訪ねてみました。

猛暑・日照りという過酷な気象条件の田村神社での４日間のキャンプ生活ですっかり消耗してしまった私は「来年の夏キャンプは涼しいところで実施したい」という熱い思いを持って下見に臨んだのでした。

施設及び周囲の環境も申し分のないもので，私はすっかり芦生に魅せられてしまいました。

その後，本部スタッフ並びに野行さんも含めて４回の下見を重ねてプログラムも着々とできあがり，ネックとなっていた輸送の問題も末吉・北野氏をはじめ育成会の方々の協力をいただいて，いよいよ実施の運びとなりました。

環境問題をテーマに取り組んだ今年度の活動の集大成となる夏キャンプ，古紙再生のはがき作り・木の鼓動に耳をすませた森林教室・カワセミあるいは岩魚の視点に立ってのイタガによる川くだりなど，好天にも恵まれた芦生原生林でのプログラムを興味深くしっかりとこなしていくスカウトの姿を見て，実は一番喜んでいたのは自分自身ではなかったかと思っています。

自己満足であってはならないのはもちろんですが，スカウト活動は「スカウトも楽しく，リーダーも楽しく」が持論である私にとって，少しはその域に達することができたのではないかと思っています。

副長４年目の夏キャンプを終わって，今，花背でこおろぎの音に耳を傾けながらこれを書いているのですが，年々プログラムを充実させていくことのプレッシャーと，さて来年の夏キャンプは何処でやろうかなどと頭を悩ませている今日この頃です。

最後になりましたが，遠隔地で交通事情が悪く食料の調達などご苦労をおかけしましたが，スカウトの栄養や健康面を気遣い心のこもった食事でお世話になりました野行さんや育成会のお手伝いの皆さん，輸送でご協力いただきました皆さん，激励に来ていただきました皆さん，そしてＤ・Ｃ三人組をはじめ，休む間もなくがんばっていただいた他のリーダーの方々に厚くお礼申しあげますとともに，喜びを与えてくれるスカウト諸君に感謝します。

弥栄

夏キャンプを終えて

今年のキャンプは、芦生山の家へ行くことになり、山の家でも初めてキャンプを行うことになりました。
それまでにも何回かの下見を繰り返し、本部数名で行くことになるのでそれからの会議と、夏キャンプのしおり作成等がうまく分担にしていながらなかなか仕上げの段階までいくのが日程に追われ配布出来なかったのが大きな反省になってしまった。

プログラムに関しては、好評なことやその他プロ進行はよくできてよく楽しんでくれていた。
いつも言うように、カブスカウトの過程に乗っ取って、ここでしか出来ないことをする、ここへ来たからやるんだと思い、キャンプを楽しむのは大切だと思います。

今回のキャンプを無事終えられたことはひとえに御父兄、団委員の御協力によるものと感謝いたしております。
計画等のしばし手違いに関していろいろ御迷惑をかけた部分もありましたでしょうが、今後とも３８団のためよろしく御協力の程お願い申し上げます。

カブスカウト隊　　隊長　　西脇　孝典

京都３８団カブスカウト
１９９５年夏キャンプ決算報告書

1．概　要

日　程　：　１９９５年7月２８日（金）～３１日（月）の３泊４日
行　先　：　京都府芦生青少年山の家　（北桑田郡美山町芦生）
参加者　：　スカウト　１４名　　デンコーチ　3名
　　デンリーダー　3名＋２名　　野営行事　4名
　　奉仕見学　１４名（うち子供４名）　本部　9名
　　合計　４７名（重複含まず）

2　支出内訳

項　目	金　額	備　考
ガソリン代補助	２９，８７２	マイクロバス１台　（２往復） 乗用車８台　（２台２往復）
施設使用料	１６１，５５０	宿泊料　大人　７１，４００ 小人　４９，２００ テント利用料　６張　６，０００ 厨房使用料　３３，１５０ 入浴料（テント使用日）　１，８００
食材料費	８１，００６	
プログラム経費	８，１８２	ハイキング、葉書作り、いかだ作り他
消耗品費	４，９９６	蚊取線香、生活用品
会議費	９，２３４	組長・次長会議、ＤＬ・本部会議
下見経費	１６，４００	ガソリン代（乗用車５台）、食事代
手土産代	４，８５４	山の家に２回分
反省会経費	９，３１０	
薬品購入費	１，３３９	
雑費	１５，００７	フイルム代他
合　計	３４１，７５０	

3．差引残額

預かり金４００，０００円　－　３４１，７５０円　＝　５８，２５０円

以上の通り、相違ありません。

隊会計

以　上